CEPA
JAPAN

2013年度
年次活動報告書

もっと身近に、生物多様性。

一般社団法人CEPAジャパン

代表挨拶・Message

ＣＥＰＡジャパンの誕生は、2010 年に名古屋で開催された「生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）」での行動に遡ります。名古屋国際会議場の白鳥ホールで行われた、「コミュニケーション、教育、普及啓発（CEPA）」の作業部会で NGO 唯一のスピーチを実現し、決議文の修正に成功しました。「国連生物多様性の 10 年に収められた目標を利用し普及啓発、教育を促進するための CEPA 活動の継続と、更なる向上を締約国に求める。」など、多くの方々との議論の成果であるスピーチによって追記された文章は、各所に散りばめられています。しかし、決議文は使わなければただの紙切れとなってしまいます。

2011 年の冬、生物多様性条約事務局と CEPA 活動の推進に関する覚書（MOU）を交わしました。これを踏まえＣＥＰＡジャパンは、生物多様性条約に基づく活動の枠を越えて、さまざまな地域で「伝承」されてきた暮らしの知恵に学び、自然に支えられ災害にも強い地域作りに向け、政府、自治体、企業、学術研究機関、地域の方々とつながりと共感を深めながら、新たな価値も創造する現代の「伝承者」を目指して活動しています。

川廷　昌弘

役員一覧

会　長	堂本暁子 (元千葉県知事 / 生物多様性 JAPAN)	
代　表	川廷昌弘	
理　事	上田壮一　川上典子　坂田昌子　佐藤健一　佐藤正弘　服部 徹　水野雅弘　森 良　宮本育昌	
事務局長	イノウエヨシオ	
事務局	木村江美	
監　事	浅見　哲（税理士法人魁　代表社員）	星野智子（一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事）
アドバイザー	阿部 治 (立教大学教授 ESD 研究センター長) 石田秀輝 (東北大学教授) 香坂 玲 (金沢大学准教授) 中静 透 (東北大学教授) 古沢広祐 (國學院大學教授) 吉田正人 (筑波大学教授)	あん・まくどなるど (上智大学教授) 上村英明 (恵泉女学園大学教授) 武内和彦 (東京大学教授) 林 希一郎 (名古屋大学エコトピア科学研究所教授) 武者小路公秀 (大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長) 涌井史郎 (東京都市大学教授)
特別会員	岩渕成紀 (NPO 法人田んぼ) 辻 淳夫 (藤前干潟を守る会) 広瀬敏通 (日本エコツーリズムセンター)	川嶋 直 (キープ協会) 中野民夫 (ワークショップ企画プロデューサー) Brendan Barrett (国連大学メディアスタジオ)
セパリスト記者	山田耕二	

ＣＥＰＡジャパンとは?

CEPA JAPAN

暮らしと国際条約をつなぐため、COP10 での活動成果を礎に、環境コミュニケーションのスペシャリストが集い 2011 年 5 月に設立しました。生物多様性という外来語が、古来から日本人が大切にしてきた、自然と共生する暮らしの基盤である事に気づいてもらうため、「もっと身近に、生物多様性。」をスローガンに、締約国の義務である生物多様性条約第 13 条「公衆のための教育及び啓発」のキーワード「CEPA」を推進しています。

※CEPA=Communication, Education and Public Awareness　(コミュニケーション・教育・普及啓発)

組織関係 map

2013年度の活動一覧

1, 暮らしの視点からの環境コミュニケーション・デザイン。
2, 環境省「国連生物多様性の 10 年日本委員会」の企画プロデュース。
3, 「生物多様性アクション大賞」の開催。「いきものぐらし」ウェブで全国の事例を掲載。
4, 東北大学が中心となって推進する「グリーン復興プロジェクト」の運営・支援。
5, ESD ユネスコ世界会議に向け「生物多様性と ESD」テーマ会議を推進。
6, 「グリーン経済」に向けた、自然資本による価値作りの研究開発。

活動ハイライト

1 MY行動宣言

国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) の普及啓発ツール。「生物多様性国家戦略 2012-2020」にも記載された「MY 行動宣言 5 つのアクション」は、九州大学矢原徹一教授のお話しにヒントを得てCEPAジャパンのメンバーが開発した「5ACTIONS !!!!!」と、環境省の「MY 行動宣言」を統合するよう提案したもの。

CEPAジャパンは UNDB-J の Iki・Tomo 推進事務局として活用を進めています。

「生物多様性の自分ごと化」を促し、日々の仕事や暮らしの中で生物多様性の保全や持続可能な利用に取組みやすくする「国連生物多様性の 10 年」の広報・教育・普及啓発（CEPA）活動の活性策として、個人・団体が全国各地で取組む事例を日常的な視点である5つのアクション「たべよう」「ふれよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」に基づいて公募し表彰する「生物多様性アクション大賞」を企画しました。CEPAジャパンは UNDB-J および一般財団法人セブン - イレブン記念財団と実行委員会を構成するとともに事務局の役割を担いました。第一回目となる 2013 年度は全国から 122 件の応募があり 19 件が受賞しました。11/3 の授賞式では受賞者を交えた自然観察会とワークショップも開催されました。

いきものぐらし

「いきものぐらし」ウェブサイトでは、5 つのアクションを指針にしながら、各地で行われている活動を紹介しています。トップページは二十四節気七十二候を表した美しいイラストが季節に合わせて変化します。「いきものぐらし」というタイトルには、私たちの暮らしに恵みを与え、私たちのいのちを支えてくれている、無数の生きものたちへの感謝の気持ちを込めて付けました。私たちも含めた生きもの同士が共生する持続可能な暮らしのことを「いきものぐらし」と呼んでみたいと思っています。

イラスト：石坂しづか　（ウェブサイト「いきものぐらし」より）

2

国連本部よりCOP10の名誉大使に任命された日本を代表する歌手MISIAと、自身が理事を務め世界的課題を音楽やアートを通じて普及啓発する事を目的に設立された一般財団法人mudef、CEPAジャパン顧問の東北大学中静透教授の協力で、生物多様性についてクイズ形式で知るCEPAツール「生物多様性検定アプリ」を開発しました。アップルストアAppStoreから無料でダウンロードできます。

MISIAの生物多様性検定アプリ

3

より多くの方に生物多様性に関心を持っていただく試みとして、国際自然保護連合日本委員会と共同して生物多様性関係17団体を取りまとめ、国内最大級の環境イベント「エコプロダクツ展」に「生物多様性ナレッジスクエア」を出展しました。CEPAジャパンブースは、「都市生活者が豊かな生物多様性を実現するためにできることのヒントを提供する」ため、「MY行動宣言5つのアクション」を活用した展示と、「生物多様性ナレッジスクエア」のラリー＆ビンゴの景品お渡し所として、多くの来場者にお越しいただきました。

4

2011年3月11日に発生した地震と津波により甚大な被害を受けた東北地方において、海や田んぼの生態系の豊かさや生物多様性を育む「グリーン復興」を推進するため、CEPAジャパンは東北大学生態適応センターとともに「海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト」の事務局を担っています。今年度は会議4回と小泉海岸エクスカーションを実施し、様々な地域からのCEPA活動を目指しました。

復興の試みを、「ヒトのつながりから、都市と現地をつなぐ商流（バリューチェーン）」へと本格化させるために、「事業者」が本業で関わることが必要となってきました。新しい東北のあるべき「グリーン復興」のビジネスを、事業者等を交えて可視化することが重要となっています。その実現に向け「東北グリーン復興事業者パートナーシップ」が立ち上がりました。CEPAジャパンは塩釜市浦戸諸島において現地社団「e-front」と共同して島のお母さんたちと地元の旬の食材を活用した「島のおすそわけ」商品開発を支援しました。

5 CEPA研究開発

自然資本の主流化に向けたコンザベーション・インターナショナルとの共同プロジェクトとして、地域の生態系の健全度を調べる「陸域健康度指標」(LHI：Landscape Health Index）の開発を進めています。CEPA視点を踏まえた研究を行うことで、より良いCEPA活動を開発したいと考えています。9月には国際里山イニシアティブパートナーシップ会合と環境経済政策学会で中間成果を発表しました。

ロゴマークに込めた、私たちの決意。

CEPA JAPAN

もっと身近に、生物多様性。

これからの私たちに必要なのは、かつてのように自然と人間を切り離すのではなく、人間の生活が豊かな自然資源に支えられていることをきちんと知り、行動すること。このシンボルマークは、私たち CEPA ジャパンの目指す「生物多様性を身近に感じることができる、本来あるべき未来」につながる、「窓」をモチーフしています。また、シンボルカラーは、「日本のさまざまな地域で伝承されてきた暮らしの知恵を学び、大切にしたい」という想いから、日本の象徴である「桜」をイメージしました。豊かな未来につながる「窓」には、「生物多様性を、すべての人々にとって、もっと身近なものにしたい」という決意が込められています。

2013 年度　決算・会計報告

損益計算書

自　平成 25 年 4 月 1 日　至平成 26 年 3 月 31 日

（単位：千円）

売上高		
	売上高	4,559
	助成金	10,914
	会費収入	292
	寄付金収入	70
売上高合計		15,835
売上総利益金額		15,835
販売費及び一般管理費		
販売費及び一般管理費合計		15,951
営業損失金額		116
営業外収益		
	受取利息	0
営業外収益合計		0
計上損失金額		116
税引前当期純損失金額		116
当期純損失金額		116

収支予算書

自　平成 25 年 4 月 1 日　至平成 26 年 3 月 31 日

（単位：千円）

科目	予算	実績	増減率
経常収支の部			
経常収益			
受取会費	498	292	59%
寄付金	1,000	70	7%
助成金	3,100	10,914	352%
事業収益	1,900	45,559	2398%
経常収益　計	6,498	15,835	244%
経常費用			
事業費	4,465	15,074	337%
管理費	1,095	904	83%
経常費用　計	5,560	15,951	287%
当期経常増額	938	-116	-12%
経常外増減の部			
経常外費用			
一班正味財産期首残高		-1,101	
一班正味財産期末残高		-1,474	

貸借対照表

平成 26 年 3 月 31 日現在　（単位：千円）

資産の部		
	流動資産	
	現金及び預金	26
	流動資産合計	26
資産の部合計		26
負債の部		
	流動負債	
	短期借入金	1,500
	流動負債合計	1,500
負債の部合計		1,500
純資産の部		
	利益余剰金	
	繰越利益余金	-1,474
	利益余剰金合計	-1,474
純資産の部合計		-1,474
負債及び純資産合計		26

団体概要

団体名　一般社団法人 CEPA ジャパン / CEPA JAPAN
代　表　川廷昌弘
所在地　〒101-0041
東京都千代田区神田須田町 2-2-5CTN ビル 3F
地球と未来の環境基金内
TEL.03-5256-6770　info@cepajapan.org
設　立　2011 年 5 月 28 日

会員制度

CEPA ジャパンは共に取り組んでいただける会員を募集しています。

運営会員 (個人) 年会費 1 口 12,000 円
賛同会員 (個人) 年会費 1 口 6,000 円
賛同会員 (非営利団体) 年会費 1 口 6,000 円を 3 口以上
賛助会員 (企業)　年会費 1 口 12,000 円を 5 口以上

会員制度の詳細はホームページをご覧ください。
http://cepajapan.org
メール　info@cepajapan.org　　ご連絡お待ちしてます！

本書内容の無断転写転載・複製等を禁ず。
© CEPA JAPAN

FSC　VEGETABLE OIL INK